

教科		公民	科目	現代社会		学年	3	単位数	3
類型		共通 ・ 文系 ・ 理系			履修規程	必修 ・ 選択			
学習の到達目標					使用する主な教材				
1. 現代社会と人間について、広い視野に立って理解を深める。 2. 現代社会の基本的な問題について、主体的に考え公正に判断する力や、人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養う。 3. 自らの個性を発揮し、文化・福祉の向上、発展に貢献する能力と、平和で民主的な社会生活の実現、推進に向けて主体的に参加・協力する態度を育てる。					最新現代社会（実教出版）				
期	月	配当時間	学習内容		学習の具体的内容とねらい				
第一期	4	12	第Ⅰ部 わたしたちの生きる社会 第1章 地球環境問題 第2章 資源・エネルギー問題 第Ⅱ部 現代の社会と人間 1：青年期の自己の形成 第1章 自分らしく生きる		・地球環境問題の現状について把握させるとともに、これらの問題は自分たちにとって身近な問題であることに気づかせる。 ・資源・エネルギーの利用において国家間の利害が衝突している現状を認識させる。とくにエネルギー問題にあつては、国内の情勢だけでなく国際的な動向にも注目させ、原子力や新エネルギーによる発電がどうあるべきか考察させる。				
	5	1			中間考査				
	6	16	第2章 人間としてよく生きる 第3章 日本人としての自覚 2：現代の民主政治と日本国憲法 第1章 現代国家と民主政治		・先哲の思想や宗教の意義に触れ、人間としていかに生きていくべきかを考察させる。 ・世界の主な国の政治体制を比較しながら理解させるとともに望ましい政治や主権者としての参政の在り方について考えさせる。				
	7	7			期末考査				
	7	7	第2章 日本国憲法の基本的性格 第3章 日本の政治機構と政治参加		・日本国憲法の基本原則と政治機構、民主政治における世論形成と政治参加の意義などを理解させ、民主政治において主体的に生きる人間としての在り方生き方を考えさせる。				
第二期	8	12	3：現代の経済社会と国民生活 第1章 現代の経済社会 第2章 日本経済の特質と国民生活		・激動する経済社会について、様々な角度から理解を深めさせ、個人や企業の経済活動における社会的責任について考察させる。 ・金融の意義や役割を理解させるとともに、金融政策の目的と手段について理解させる。 ・近年の雇用や労働の動向を、経済社会の変化や国民の勤労権の確保の観点から考察させる。				
	9								
	10	4	4：国際社会と人類の課題 第1章 国際政治の変化		・主権や国際政治、国際経済などの諸問題を理解させ、国際社会における日本の役割や日本人の生き方を考えさせる。				
	10	1			中間考査				
	11	6	第2章 国際経済の動向と国際協力		・国際政治は国連を中心として、国際経済は貿易や為替を中心として身近な問題として考えさせる。				
	11	10	第Ⅲ部 共に生きる社会をめざして		・持続可能な社会の形成に参画する個人としての自覚を促すとともに、多文化共生社会を実現させるために必要な個人の在り方生き方について考察を深めさせる。				
第三期	12	10	センター試験・個別試験に向けた総復習・問題演習		期末考査				
	1	1			卒業考査				
	2								
	3								
	評価の方法			定期考査および小テストの実施、課題提出等を総合して評価する。					